

# 背面開放座位療法講習会 活動報告

## 《 講習会開催の趣旨 》

背面開放座位療法は、対象者の早期離床、生活動作獲得に有効な看護技術の一つと言えます。日本看護技術学会では、2002年の学会設立当初から学術集会交流セッション等でその有効性を検討し報告してきました。2013年からは診療報酬改定に向けて「背面開放座位療法」に関する医療技術評価提案書を看護系学会等社会保険連合を通じて厚生労働省に提出いたしました。

この度、普及活動の一環として、日本看護技術学会主催の背面開放座位療法講習会を開催いたしましたので、報告させていただきます。

◆講師：大久保暢子先生

聖路加国際大学看護学部准教授・日本看護技術学会理事

◆日時：平成28年1月23日(土)10:00～15:30 (受付開始 9:30～)

◆参加費：3000円(昼食代を含む)

◆場所：聖路加国際大学 301教室

◆内容：

〈午前〉大久保講師より背面開放座位の基礎的な知識と科学的根拠に関する講義が行われ、数々の研究でエビデンスを検証していくプロセスを丁寧に概説していただきました。

〈午後〉背面開放座位保持のための保持具とベッドを使用して実技訓練を行い、その後、参加者間で意見交換を行いました。

◆講習会スタッフ5名(技術研究成果検討委員3名、ボランティア2名)

## 《参加者の背景》

関東の病院で活動する脳卒中リハビリテーション看護認定看護師をはじめ、岩手、愛知、岐阜、愛媛など全国の臨床看護師、ご家族など合計22名の方が参加してくれました。

日本看護技術学会員が7名、非会員が15名でした。

看護師の方々の臨床経験年数は、3から22年、平均17.4年でした。



⇒ まず大久保講師から背面開放座位療法が生まれた背景・経緯、特徴、研究から得られた効果のエビデンスが報告されました。

次に長年取り組んでいる千葉療護センターの秋元副看護部長から事例が紹介されました。⇒



# 午後 実技訓練風景 (写真は許可を得て、公表しています)



大久保講師より保持具を用いた背面開放座位のポジショニングが行われた後、参加者間で3種類の保持具を使用して背面開放座位療法を体感し、意見交換を行いました。



← **参加者の意見交換会**：実際に背面開放座位保持具を活用している施設の事例や、保持具がないと導入できないのでハードルが高いこと（理解が得られないと購入できない）、背面開放座位の対象患者や実施する時の注意点などが記載されたガイドライン(Q&A)の必要性、よりエビデンスを蓄積する必要性や、診療報酬化に向けた取り組みについてなど、活発な議論がなされました。



最後に記念撮影！ ⇒  
実りある講習会になりました。

## 《実施後アンケート結果から》

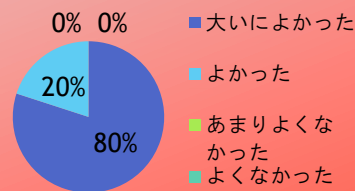
### 【講習会内容についての感想・意見(抜粋)】

- 「脳に与える影響・効果があった。理解不十分で使用していたことがわかった」
- 「日常的に行っている背面開放座位や保持具の使用、エビデンス・効果を客観的に考えられる機会になった」
- 「講習内容はとてもわかりやすく、病棟の患者がイメージできました」
- 「すごく分かりやすかったです!ギャッジアップだけでは意味がないことにびっくりしました」
- 「研究成果や背面開放座位の経過が理解できてよかった」

### 【講習会内容の構成についての感想・意見(抜粋)】

- 「同じ経験をしている人々から対策を聞いてよかったです」
- 「実際に訓練することで気づけた部分があり(座位姿勢・おしりの位置・高さの調整)、実践につなげていけると思いました」
- 「実際に行っている方のお話を聞くことができたのでとても参考になりました」
- 「最後の意見交換で、自施設の実施について改めて考え直す必要があることがよくわかった」
- 「参加者の自己紹介や交流がお昼中などにあったらよかったです」
- 「使用しているところと使用していないところを分けてほしかった」

## 講習会内容について



## 講習会内容の構成について

